

自主独立——干渉とたたかって

歴史的巨悪 **ソ連** の崩壊を「もろ手をあげて歓迎」

1960年代、日本共産党は、“いいなりになれ”という旧ソ連からの干渉攻撃をキツパリはねのけた。

1979年、ソ連のアフガニスタン侵略を厳しく批判(写真)。

1991年、旧ソ連共産党の解体にあたって、「大国主義・覇権主義の歴史的巨悪の党の終焉を歓迎する」と党の声明を発表した。

社会主義と無縁の「人間抑圧型国家」

旧ソ連は、外にむかっては覇権主義、内では人間抑圧の専制政治の国だった——ソ連崩壊後、はじめて明らかになった資料にもとづいた分析で、ソ連は社会主義国とはまったく無縁の社会だったことが明らかに。

北朝鮮の無法をきびしく批判し、関係断絶

70年代の金日成個人崇拜おしつけ、83年ラングーン爆弾テロ事件、88年の大韓航空機爆破事件などをきびしく批判。他の党が友好関係をつづけるなかで、83年から関係を断絶した。

拉致問題でいっかんした立場

- 88年、橋本参院議員が、拉致問題を国会でとりあげ、政府にはじめて、「拉致疑惑」を認めさせた。
- 90年、諫山衆院議員が、き然とした警察の捜査をもとめる。
- 98年、木島衆院議員が、あらゆるパイプで真相解明、被害者の消息を明らかにすべきとせまる。
- 99年11月、不破委員長(当時)が、拉致問題をふくめ、外交ルートをはらいて“交渉での解決”を提起。
- 99年12月、超党派の国会議員による訪朝団。政府間交渉の再開に合意。
- 02年、拉致をみとめた北朝鮮にたいし、真相解明、責任者の処罰、妨害者への謝罪と補償を要求。
- 現在、日朝平壤宣言にもとづく交渉、6カ国協議のなかでの問題解決に努力。

超党派訪朝団で唯一頭を下げなかった共産党代表

99年訪朝した国会議員代表団を、北朝鮮は、前の指導者・金日成のお墓につれていった。日本の各党議員が、金日成廟に深ぶかと頭をさげ、記帳までしたのにたいし、日本共産党議員だけはきっぱり拒否した。